

SHOW HEY シネマール

★★★★

The Beguiled / ビガイルド 欲望のめざめ

2017年 / アメリカ映画

配給：アスミック・エース、STAR CHANNEL MOVIES / 93分

2018 (平成30) 年 2月 24日鑑賞

TOHOシネマズ西宮OS

Data

脚本・監督・製作：ソフィア・コッポラ

原作：トーマス・カリナン『The Beguiled』

出演：ニコール・キッドマン / キルスティン・ダンスト / エル・ファニング / コリン・ファレル / ウーナ・ローレンス / アンガリー・ライス / アディソン・リーケ / エマ・ハード

👁️👁️ みどころ

1971年の前作『白い肌の異常な夜』も、本作『The Beguiled / ビガイルド 欲望のめざめ』も意味シなタイトルで、日活ロマンポルノ風・・・？女の園に一人傷ついた北軍兵士が闖入してくるところから始まる物語と聞けば、なおさらだ。

いやいや、そんな期待をしてはダメ。第70回カンヌ国際映画祭で監督賞をゲットした本作には、ソフィア・コッポラという女流監督ならではの魅力がいっぱいだから、それをしっかりと！

もっとも、男と女のラブゲームの描き方はちょっと薄っぺら？さらに、和歌山カレー事件の難解さに比べれば毒キノコのストーリー（？）もあまりに単純すぎ・・・？私には、そんな気がしないでもないが・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■あの女流監督が、あの名作のリメイクに挑戦！■□■

ソフィア・コッポラ監督が、1971年に映画化された『白い肌の異常な夜』のリメイクに挑戦！時代は南北戦争末期の1864年。舞台はバージニア州にある女子寄宿学園だ。そこには園長のミス・マーサ（ニコール・キッドマン）、教師のエドウィナ（キルスティン・ダンスト）の他、年の差のある5人の生徒徒たちが生活していたが、そこに負傷した北軍の兵士マクバニー伍長（コリン・ファレル）が匿われることになると・・・？女だって年頃になれば♂性の目覚めは当然。日常的にそれが抑圧されていた女の園に、いきなりそんな闖入者がやってくると・・・？

旧作はクリント・イーストウッドの主演ぶりが目立っていたし、ドン・シーゲル監督の「男の視点」で女の園に起きる「異変」が描かれていたが、本作は女性監督の視線で女の生態（性態？）が赤裸々に・・・。

■□■女の園の秩序は？そこに闖入者が入ってくると？ ■□■

本作は1970年代の日活ロマンポルノのテーマにだってなりそうなテーマだが、ソフィア・コッポラ監督、ニコール・キッドマン主演の映画に、そんな方面の期待はムリ！たしかに、全員きれいなドレスを着こなした女の園の秩序は完璧で、厳格な規律は十分機能していると思われたが、マクバニー伍長のキズが癒え、庭師としてのお手伝いをしたり夕食に招待されたりし始めると、彼の女たちを見る目にも少しずつ余裕が・・・。

他方、傷ついたマクバニー伍長を最初に森の中で発見し、肩を貸して助けてくれた少女エイミー（ウーナ・ローレンス）は、まだ幼いから彼の恋愛の対象にはならず、良きフレンドとして落ち着いたが、年長組の生徒であるアリシア（エル・ファニング）、ジェーン（アンガリー・ライス）、エミリー（エマ・ハワード）、マリー（アディソン・リーケ）の4人は、はじめて見る大人の男に興味津々。冒頭はやバそうな北軍の負傷兵と思えたマクバニー伍長も、ひげを剃ればかなりハンサム。そんな彼が、女性に優しく振るまってくると、この男の気を引こう、この男に気に入られようと、次第に女たちの競争が始まることに・・・。

中でもいちばん熱心だったのは、教師のエドウィナ。密かにブローチを付けておしゃれをしてみたり、夕食会の席で両肩を露わに見せたりと、えらく積極的だ。さらに、そんな大人の世界の競争にマリーも負けじとエドウィナの真珠のイヤリングをつけて着飾る始末だ。マーサ園長はそんな生徒たちをたしなめたが、自身も生身の男の身体に接してその治療を施していると、胸の高鳴りを抑えきれない状態に・・・。このように、一人の「闖入者」がやってくると、それまではきっちり秩序が保たれていた女の園はちょっとヤバい雰囲気・・・。

■□■ラブゲームの描き方は、ちょっとおざなり？ ■□■

本作は第70回カンヌ国際映画祭でソフィア・コッポラ監督が女性として2人目の監督賞を受賞した作品であるうえ、『キネマ旬報』3月上旬号では特集もされている人気作だが、93分と近時の映画にしては短い。それはそれでありがたいのだが、いきなり何の前触れもなくマクバニー伍長がエドウィナに対して「君は美しい」から始まり、「君を愛してる」と告白する展開にはアレレ・・・。また、夕食会が終わった後「君の部屋に忍んでいくよ」と告白されたエドウィナが一人期待してベッドの中で待っているのに、マクバニー伍長は他の部屋で他の女性とじゃれ合っていたから、アレレ、アレレ・・・？ここらあたりの男と女のラブゲームの描き方は、ちょっとおざなりすぎるのでは・・・？

本作導入部でマクバニー伍長の傷の手当をし、身体を拭く作業をただ一人でやっている

マーサ園長の何ともいえない情感(?)を見ていると、本作ではマーサ園長が許されざる恋に陥る?と一瞬錯覚したが、さにあらず。「男と女のラブゲーム」はマクバニー伍長とエドウィナの間で進んでいく。ところが、あの夕食会の後、ベッドの行き違い(?)から狂乱したエドウィナによって、マクバニー伍長は階段から突き落とされてしまったから大変。もっとも、ここまで大変な事態になるのはそれなりの恋のもつれが不可欠だが、本作ではそこらの描き方もちょっとおざなり・・・?

また、外科の専門医でもないマーサ園長が壊死を防ぐべくマクバニー伍長の左足を切断するという外科手術をやりとげたのは立派だが、これもちょっと現実離れしているのは・・・?

■□■男の感情のブレをどう理解?■□■

本作では、マクバニー伍長の「感情のブレ」が極端から極端に走っている点が目立っている。優しい面をみせるマクバニー伍長は兵士とは思えないジェントルマンだが、いったん暴れ始めるとその凶暴さはハチャメチャだから、それに女たちがおびえたのは仕方ない。そのため、マーサ園長は何とか外部から応援を呼ぼうとしたが、その途が断たれる中で女たちが考えたマクバニー伍長廃除の手段は・・・?

寄宿学園は深い森の中にポツンと建てられていたから、森の中に入ってキノコ類を採取するのは若いエイミーの仕事だったらしい。本作冒頭エイミーがマクバニー伍長を発見するのはそんな仕事の途中だったが、本作ラストに向けてはそんなエイミーのキノコを採る能力が大いに威力を発揮するので、それに注目!

1998年7月25日に起きた和歌山毒物カレー事件では、被告人とされた林真須美に対して、1審、2審とも死刑判決が下され、2009(平成21)年5月18日には最高裁判所で死刑が確定したが、本人は一貫して全面否認したままだった。しかして、本作における、それと似たような(?)ラストに向けてのシークエンスはいかなる展開に・・・?

■□■この英語の意味は?タイトルの納得感は?■□■

本作はかつての名作のリメイクであるうえ、カンヌ国際映画祭の監督賞受賞作だから、それなりに面白い。しかし、私の目には恋愛劇の展開で少し「手抜き」が目立ったのが残念。恋の手練手管については、隅から隅まで熟知しているはずのソフィア・コッポラ監督が、その点をなぜこんなに粗略に描いた(?)のか私には少し不思議だ。

また『ビガイルド 欲望のめざめ』というタイトルもイマイチ。「beguiled」とは動詞beguileの過去形、または過去分詞で、「(…で)だます、欺く」という意味。しかし、これは英検1級以上の単語だから、私を含めて多くの日本人はこれを理解できないのでは・・・?

2018(平成30)年3月5日記